● 読書感想文コンクール　中学校の部 ●

優秀賞

亀井　彩香（かめい　あやか）　甲ノ原中 ２年生

作品名：私のくちびるにも歌を
図　書：くちびるに歌を

「くちびるに歌を持て、ほがらかな調子で。これを忘れなければだいじょうぶ。」これは、「くちびるに歌を」に登場する中学校の合唱部の顧問、松山先生の言葉です。産休に入る前に、部員にそう語ったのです。

この話は、五島列島のある中学校の合唱部が舞台となっています。前にも書いたように、部員に合唱を教えていた先生に子供ができたため、その代理として美人なピアニスト「柏木先生」がやってきます。その柏木先生と一緒に、合唱部がＮＨＫ全国学校音楽コンクールを目指す、という物語です。

私がこの本を読んだきっかけは、十月に合唱祭があるからです。私は、課題曲の伴奏者でもあり、皆をまとめていかなかればなりません。この少し不安な気持ちを、「くちびるに歌を」の合唱部員も感じているのではないか、何だか共感できそう、と思い、手に取ってみました。

私が感動し、心を動かされたのは、部員の一人、長谷川コトミが強い考えを持っていた、という点です。男子が練習をふざけてしまい、合唱部が二つに分裂してしまったときのことです。長谷川コトミは、友達と二人きりになったとき、照れたように言いました。

「男子の声がないと成立せん。やけん私、男子と歌いたいと。」

これは、歌の演出も考えた上での言葉でした。他の女子が「男子なんて嫌い」と思っている中、このようなことを言えるなんて、芯が強いな、と私は思いました。もし私がそう思っていたとしても、絶対に口には出せないと思います。皆と反対の意見を言ったら、嫌われてしまうのでは無いか…。そんな小さな自分が、心の中にいるからだと思います。私はこれから、合唱祭の練習をしていくにあたって、思ったことをためらわずに言える、長谷川コトミのようなぶれない心の持ち主でありたいです。

また、父親が家を出ていってしまってから、異性を受け入れられなくなってしま

っている仲村ナズナが変わっていく場面も印象に残りました。仲村ナズナは、男子と普通に接することができるようになったとき、「いっしょに歌声を重ね、音楽を紡いでいるうちに、一切の憎しみが、拒否反応が、浄化されてしまったのだろうか。」と感じています。これぞまさに「音楽の力」。私はこの文章を読んだとき、そう感じました。でも、「音楽の力」を生むためには、音を楽しむこと、「音楽」を精一杯しなければいけないような気がします。そうすることで、心に届く歌となり、苦しんでいる人の心の傷が、いやされていくのではないでしょうか。この場面に出会って、今まであまりはっきりと見えてこなかった合唱祭で頑張る理由を、一つ見つけられたように思います。

そして、もう一点は、「くちびるに歌を持て、ほがらかな調子で。」という松山先生の言葉についてです。松山先生は、もう会えなくなってしまう合唱部の皆に、これを実行すれば合唱は必ず成功するということを伝えたかったのだと思います。なぜなら、ＮＨＫ全国学校音楽コンクールのときに、合唱部員はこの言葉を思い出したため、良い思い出をつくることができたからです。惜しくも賞を逃し、九州大会には進めなかったものの、皆に悔いはありませんでした。このようなことから、私は、合唱をするときには、この言葉を大切にしていきたいです。練習がどんなにきつくても、「ほがらかな調子で」歌えば、笑顔になれる上、先も見えてくるのだと感じます。松山先生の言葉は、今まで私が本を読んだ中でも、一番に近いくらい、心に響きました。

「くちびるに歌を」に出てくるＮＨＫ全国学校音楽コンクールの課題曲は、「手紙～拝啓十五の君へ～」でした。それにちなみ、柏木先生は十五年後の自分に向けて手紙を書くよう、部員に宿題を出しました。だから私も、最後に、合唱祭の練習をしているであろう未来の自分に、手紙を書きたいと思います。

拝啓　合唱祭に向けて頑張っている自分へ。

夏休みに、「くちびるに歌を」という本を読んだのを覚えていますか。その本には、読書感想文に書いてあったこと以外にも、合唱に大切なことがたくさん書いてあったよね。ずっと笑顔でいること、仲間を信じ合うこと。それを忘れないでほしいです。伴奏は、部活や生徒会などの合間に練習しなくてはならないけれど、暗譜はできていますか。不安だけれど、きっとできると信じています！

合唱は、「くちびるに歌を持って、ほがらかな調子で」頑張ってね！

敬具